

時間待ちシカたなし

トオル社長の珍道中

「国宝曜変天目」2碗 見に行ってきました!

先ずは、奈良国立博物館にて開催中の特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展」です。この特別展は、休館中の藤田美術館が2022年4月のリニューアルオープンすることによるもので、世界に3碗しか存在しないと言われる国宝「曜変天目茶碗」をはじめ「玄奘三蔵絵」「両部大経感得図」「仏功德時絵経箱」などの仏教美術を中心に、館外初公開を含む多彩なコレクションが紹介されています。6月9日(日)までです、お早めに!

国宝 曜変天目茶碗 現存するものは世界に3碗(東京・静嘉堂文庫美術館蔵、京都・大徳寺龍光院蔵、大阪・藤田美術館蔵)しかないと言われる名碗です。瑠璃色の曜変と呼ばれる斑文(はんもん)は、まるで宇宙に浮かぶ星のように美しい輝きを放ち、優雅な華やかさを誇っています。このような文様が現れる理由は、未だに完全に解明されておりません。藤田美術館所蔵の本品は、徳川家康が所蔵し、これを譲り受けた水戸徳川家、藤田家を経て今日に伝えられた国宝中の国宝で、これまで教壇しか館外に出たことのない至極のコレクションの一つです。南宋(12~13世紀)



次にMIHO MUSEUMで開催された「大徳寺龍光院 国宝 曜変天目と破草鞋(はそうあい)」を見てきました。タイトル通り、1606年の開創以来400年にわたり、曜変天目・密庵墨蹟といった国宝や重要文化財を守ってきた大徳寺龍光院。一般の拝観を受け付けずこれまで目に触れる機会がなかったとされている。龍光院は、黒田長政が父・黒田孝高(如水、官兵衛)の菩提を弔うため、龍光院2世の江月宗玩(そうかん)を実質的な開祖として慶長11年(1606)に建立された。当時から高松宮好仁親王、小堀遠州、松花堂昭乗など一流の文化人が集う寛永文化の発信地であり、その後400年を経てまた、開祖の教えをいまに伝えている。江月は堺の豪商である天王寺屋の次男として生まれ、天王寺屋伝来の茶道具、寛永文化の美を戦火や天災から守り抜いた。展覧会タイトルの「破草鞋」とは、破れた草鞋(わらじ)を表す言葉。以前読んだ



臆雲斎大宗匠のお言葉の中に「僧堂で修行でしていた頃、老師に「破草鞋」という公案を出されました。「はそうあい」って何やと。最初は字も分からなかった。破れたわらじにとらわれているようではあかん、破れたことすら忘れて地べたを歩く、つまり全てを捨て去らなさいといけなさいということです。修養とはそういうもの、茶の道も同じです。一生勉強なのです。」とありました。私も学んだことをちろつかせることなく、人知れず平凡に生きていこう心掛けたいものです! 森田亨

—藤田美術館・MIHO MUSEUM HPより—

大正から昭和にかけて刊行された茶道具書籍『大正名器鑑』で著者の高橋箒庵(はしろう)が当時「曜変」とされていた6点をあげている。



①大名物 国宝、静嘉堂文庫蔵
伝来は、徳川將軍家所蔵であったものが、三代將軍・家光の時代春日局を経て、後に淀藩主となる稲葉家へ。大正7年3月18日東京両国美術倶楽部にて、16萬8千円で稲葉家姻戚の小野哲郎に落札される。その後、三菱第四代社長 岩崎小彌太が入手し、静嘉堂文庫所蔵となる。曜変天目の中で最高のものとされている。

②大名物 国宝、藤田美術館蔵
水戸藩祖徳川頼房より代々同家に伝来。大正7年10月21日水戸家道具入札売却において5萬3千8百円にて男爵 藤田平太郎が入手し、現在の藤田美術館所蔵となる。



高橋箒庵はこの6点を解説しながら、徳川家と酒井家と前田家の天目については、それぞれに「稲葉家若くは水戸家」とは相違せり、「大体油滴手なれども、内側に小星紋あるに依りて、曜変の部類に加えられたる者なるべし」、「油滴に非ずやと思はれしが、今度此曜変を見るに及んで、曜変にも亦此種類ある事を会得せり」などの感想を実見記の欄に記している。高橋箒庵 実業家・茶人。王子製紙の専務引退後、茶道三昧の生活を送る。

令和元年 推奨商品 華乃会お買得価格でのご紹介です!

 山川敦司 糸巻茶碗 ¥26,000→¥18,000	 古垣嘉一 薩摩焼虫茶碗 ¥25,000→¥17,000	 岩田久利 花入「嘉祥」 高さ28cm 横幅11cm ¥38,000	 金谷宗林 笹蓋置 ¥32,400→¥22,000
 誠中齋 如意庵古材笹香合 大亀箱 ¥60,000	 金谷宗林 さざえ蓋置 ¥19,500→¥14,000		

土	1	先勝	
日	2	友引	休日営業16時まで
月	3	大安	
火	4	赤口	
水	5	先勝	
木	6	友引	
金	7	先負	
土	8	仏滅	水無月茶会
日	9	大安	水無月茶会
月	10	赤口	
火	11	先勝	
水	12	友引	
木	13	先負	
金	14	仏滅	
土	15	大安	
日	16	赤口	定休日
月	17	先勝	
火	18	友引	
水	19	先負	
木	20	仏滅	
金	21	大安	
土	22	赤口・夏至	
日	23	先勝	定休日
月	24	友引	
火	25	先負	
水	26	仏滅	
木	27	大安	
金	28	赤口	
土	29	先勝	
日	30	友引	定休日

月刊 いつもの
ギャラリー
さん
(題字・三輪休和)
115号 令和元年
2019年6月発行

6月催事ご案内
8 【土】
9 【日】
9:00am ~5:00pm
水無月茶会

初夏の茶道具正札市

・編集の窓・

鴉草 photo by S,A

鴉草 トキソウ
日当たりの良い湿地に生えるラン科の多年草。
五月から七月頃に、茎に先にひとつの淡紅紫色の花を横向きにつける。
北海道から九州の湿地に分布する野生の蘭。
和名は薄い桃色の花を朱鷺(すさぎ)の羽の色に見立ててつけられた名で、鴉草・朱鷺草とも書く。
今回の撮影地、佐賀県の檜原湿原は九州の尾瀬と呼ばれていて、標高六百メートルにあり自然環境保全地域特別地区に指定されている。

ギャラリー森田ホームページ
右記のQRコードを読み込みアクセスしてください!

Instagram
お客様からいただいた石菖と雪ノ下に隣の岡崎山の観音市で買ってきたカエルをあしらってみました。年号も変わりましたし、今年の梅雨は平穏なのを願います。
月刊「ぎやらいさん」編集プロジェクト